



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



昭和大学ホームカミングデーが開催されました

歯科医学教育推進室 片岡 竜太

第3回昭和大学ホームカミングデーが10月10日(日)、旗の台50年記念館において、旗が丘祭・いぶき祭に合わせ



て開催されました。朝は雨模様でしたが、開式の頃は雨も上がり良い天気になりました。医歯薬保健医療学部の同窓会が合同で準備をし、富士吉田で全寮生活を過ごした医学部53回生、歯学部3回生、薬学部16回生と卒後50年の医学部28回生が招待され、約180名が参加しました。

式典は、昭和大学管弦楽団の歓迎演奏に始まり、片桐敬学長、小口勝司理事長、新井平八郎薬学同窓会長からのご祝辞を賜った後に、卒業後社会へ貢献したことに對して、ゴールデン表彰(卒後50年)、シルバー表彰(卒後25年)の授与が行われ、各学部の代表者に記念の盾が渡されました。そして招待クラスを代表して、浅賀英世先生(医学部28回生)からご挨拶をいただきました。その後グリークラブの部員とともに、全員で校歌を斉唱後、応援指導部が卒業生へのエールと題して、演舞を披露してくれました。



この式典に引き続いて、各学部同窓会長による鏡開きから始まる懇親会が開かれました。富士吉田で一緒に寮生活を過ごした仲間が、学部を超えて30年ぶりに集い、Medical All Stars Jazz OrchestraのOBによる演奏を楽しみながら大いに語り合いました。懇親会の後、旗が丘祭で現役学生達とふれあい、その後入院棟の17階のタワーレストランで、3学部合同の

2次会を開きました。約200名の同期生が旗の台キャンパス周囲の景色を楽しみながら、ともに時間を過ごしました。歯学部3回生55名はこの後さらに卒業後初めての同期会を福原、川和、若月、宮下名誉教授にご臨席いただき、品川プリンスホテルで開催しました。

異なる地域、職場で様々な立場で働く同期生と久しぶりに話すことにより、昭和大学人としてのアイデンティティが深まり、さらに歯学部3回生が集うことで、自分の原点に立ち返ることができた人も少なくなかったと思います。今母校でチーム医療ができる医療人を育てるための学部連携教育・地域連携教育を推進していますが、学部・地域連携教育の原点は、昭和大学人のアイデンティティを深めることにあるのではないかと思います。今後このホームカミングデーがさらに現役学生との交流も含め、学年を超えた昭和大学人のものになることを期待します。

最後に、田中一正委員長をはじめとする実行委員会の皆様と早朝からご準備いただいた事務の皆様にご心から御礼を申し上げます。

昭和大学大学院秋季入学式が挙行されました

歯学研究科運営委員会委員長 上條 竜太郎

本年度より本学大学院は、秋季入学制度を導入することとなり、去る10月5日(火)午後6時より、旗の台1号館5階会議室に於いて、平成22年度昭和大学大学院秋季入学式が執り行われました。今年度の入学者は、医学研究科4名、歯学研究科3名、薬学研究科後期博士課程1名の合計8名でした。

はじめに片桐学長が告辞を述べられ、続いて小口理事長のご挨拶、小出医学研究科長、宮崎歯学研究科長、山元薬学研究科長の紹介と続き、参加者全員で校歌を斉唱し、午後6時30分に閉式となりました。



第46回 ISO/TC106会議に出席 しました

歯科放射線学教室 岡野 友宏

第46回 ISO/TC106 歯科専門委員会総会が本年9月26日から10月2日にかけてブラジル、リオデジャネイロで開催され、本学からは私と玉置幸道准教授(歯科理工学)が出席しました。私は日本歯科医学会からの派遣でした。ここでは ISO の概略を紹介するとともに、今回の総会の概要、町の様子をお知らせします。



TC106の全体集会在開始される直前の日本代表団

ISO (International Organization for Standardization, 国際標準化機構) はご存じのように国際的に非常に影響力の大きい組織で、その目的は1) 国家間の製品やサービスの交換を助けるために、標準化活動の発展を促進すること、2) 知的、科学的、技術的、そして経済的活動における国家間協力を発展させること、にあります。実質的な活動組織は技術管理評議会であり、その下に192にも及ぶ TC (Technical Committee, 専門委員会) があります。例えば TC106 Dentistry は歯科専門委員会であり、TC 215 は Health Informatics 保健医療情報の専門委員会です。TC にはさらにいくつかの SC (Subcommittee, 分科委員会) があり、TC106であれば、SC1-Filling and restorative materials 充填・修復材料、SC 2-Prosthetic materials 補綴材料、SC3-Terminology 用語、SC4-Dental instruments 歯科器具、SC 6-Dental equipment 歯科器械、SC7-Dental care products オーラルケア用品、SC8-Dental implants 歯科用インプラントという具合です。また各 SC には WG, Working Group が複数あるのが通例です。加えて TC 直下に Biological evaluation 生物学的評価、CAD/CAM systems の2つの WG があります。そういうわけで、TC 106 Dentistry という歯科だけの専門委員会であっても非常に多くの小委員会が開かれることとなります。ところで、同じ医療機器であっても、放射線医療機器や医用電子機器は ISO ではなく、IEC (International Electrotechnical Commission, 国際電気標準会議) の TC62で検討されます。ただし日本国内では ISO と IEC は経済産業省に設置されている審議会、日本工業標準調査会 (JISC, Japanese Industrial Standards Committee) に東ねられ、日本工業規格 (JIS,

Japanese Industrial Standards) という国家規格として定められます。ISO/IEC で決められた規格は特別な場合を除き、そのまま翻訳されて日本の規格となることが多いとされています。

私が日本代表として参加した SC3はフランスの標準局 AFNOR の担当で、委員長はフランス人です。WG は4つ、WG 1-Harmonization of dental codes and abbreviations, WG 2-Dental vocabulary, WG 3-Communication and communications, WG 4-Definition of new terms relating to the need of dental standards があり、今回、WG2は開催されませんが、それ以外の3つの WG (各終日) と SC3としての総会 (半日) があり、これらに出席し、課題を議論しました。加えて SC1/WG10 Dental luting cements, bases and liners において、放射線の専門家として意見を述べる機会がありました。そういうわけで一人が複数の WG を掛け持ちするのが通例で、せわしく動き回る委員の姿が一つの風景になっています。今回は SC7議長交代と、CAD/CAM の新 SC の設立が日本から提案され可決されました。

ブラジルの景気がいいのかわかりません。大会直前に会場となるホテルで麻薬マフィアと軍・警察との撃ち合いがあり、2名が死亡するという事件が発生しました。町には一人で出かけないこと、カメラをぶら下げて観光客然とした様子を見せないこと、などの注意がありましたが、人口対犯罪率が極度に高いというリオの町では当然かも知れません。ブラジルのスラムというファベラですが、リオでは貧しい人々が山の斜面やがけっぶちなどに、小屋のような家を建てて住みついてスラム街を形成しています。右の写真はそうした環境悪化でうち捨てられたといわれるホテル・ナショナルです。ブラジルを代表する建築家、オスカー・ニーマイヤー Niemeyer の作品です。彼はル・コルビュジェと共にニューヨークの国際連合本部ビルをデザイン、また首都ブラジリアの主要な建築物を設計しています。幸いなことに、このホテルは2014年のサッカー・ワールドカップに向けて再出発することです。



ブラジルと日本の時差は12時間で、夏と冬が反対です。まさに地球の裏側ではありますが、仕事を離れて責任がなくなった折には、是非とも再訪したいと思いました。

ポートランド州立大学サマープログラムに参加して

歯学部1年 栗原 舞

今回の研修では、Oregon Health and Science University というアメリカの医療大学を始め、様々な病院や歯科クリニックを訪問しました。その中で一番驚

いたことは、日本とアメリカの保険制度の違いでした。日本ではすべての人が保険に入っています



ますが、アメリカはそうではありません。お金のない人は保険に入ることが出来ないため、保険に入っていない人がいるというのはアメリカでは全く不思議なことではありません。保険がないと虫歯一本治すことにも莫大なお金がかかります。そのため、日本よりも予防歯科が進んでいます。虫歯になってから治すのではなく、虫歯にならないようにする、というアメリカ人の歯科に対する意識の高さに驚きました。日本人はまだ歯科に対する興味関心が薄いと思います。日本もぜひアメリカ人の歯科に対する意識の高さを見習うべきであると感じました。

この研修では、現地の看護師さんの講習を聞く機会もあり、歯科だけでなく、他の分野の医療に関する情報もたくさん取り入れることができました。そのため、自分の今まで持っていた考え方の枠が大きく広がり、とてもよい経験になりました。

若手研究(研究活動スタート支援)の交付が内定しました

歯学部研究活動委員会委員長 上條 竜太郎

8月25日、日本学術振興会は平成22年度科学研究費補助金(研究活動スタート支援)の交付内定(新規課題分)を公表しました。本研究費は研究活動をスタート(あるいは再スタート)しようとする者を支援するものであるため、前年秋の時点で科研費に応募できなかった者を対象としています。昭和大学歯学部の交付内定件数は8件(大学全体で9件)でした。申請件数は21件でしたので、採択率は38.1%でした。交付内定者の氏名と所属は以下の通りです。鈴木大(口腔生化学)、吉村健太郎(口腔解剖学)、田中玲奈(歯科保存学)、大森さゆり(歯科補綴学)、舘慶太(歯科補綴学)、中道由香(口腔リハビリテーション科)、南保友樹(歯科矯正学)、中川量晴(口腔衛生学)。

歯学部オープンキャンパスが開催されました

入試常任委員 井上 富雄

8月28日に歯学部単独としては本年2回目のオープンキャンパスが開催されました。今回は、「歯学部OBからの励ましの声」として、東京医科大学口腔外科学教授で本学14回生の近津大地先生が「チーム医療の実践者」というタイトルで講演されました。先生が口腔外科医を目指された経緯から最新の口腔外科治療の実例まで分かりやすくご紹介いただき、参加者にはかなりインパクトがあった様子でした。続いて代々木ゼミナール講師のお二人の先生方に、英語と数学について、勉強の取り組み方から実際の入試問題の解法まで1時間ずつ講義をいただきました。現在の若者気質にあわせた独特の語り口でかつ熱い講義に参加者は熱心にノートを取っていました。

また、9月12日には、3回目のオープンキャンパスが旗の台で開催され、宮崎学部長の挨拶に続き、本



学の教育の特徴、富士吉田キャンパスでの生活、入試の説明が行われました。続いて、本学歯科矯正学教室 榎 宏太郎教授が「歯科の未来への挑戦／ハヤブサが教えてくれたこと」と題して模擬講義を行われました。その中で、欧米等に比べて極めて少ない予算で小惑星探査機「ハヤブサ」を打上げ、小惑星「イトカワ」に着陸後に通信が途絶えるなど絶望的な状況乗り越えて地球に帰還するまでのエピソードを通して、決してあきらめずに目的達成に人知を尽す関係者の姿勢をご紹介いただきました。さらに矯正学教室の研究の実例を示されながら、知恵と努力で歯科を巡る諸問題を乗り越えていけば、現在の厳しい状況がチャンスに変わるという榎教授の説得力あふれる言葉に、参加者だけでなく入試関係者も大いに勇気付けられました。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 11月 7日(日): 推薦入学試験, 編入学試験
- 11月15日(月): 創立記念日
- 12月 4日(土): 大学院入試・昭和歯学会例会

昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

有本 隆文 講師(口腔微生物学)

大学院歯学研究科の英語教育を担当します

Michael W. Myers

My name is Dr. Mike Myers and I am the new English instructor for the graduate students. I'm also a researcher, but I don't know much about dentistry. My area of research is in Social Psychology. I received my Ph.D. at the University of Oregon in 2009, and in the fall, moved to Japan. Since then, I have been working with researchers at Tokyo University as a visiting researcher, and also provided English consultation work for the Japanese Psychological Association. However, I have always wanted to teach at a university and am grateful for the chance to teach at Showa University.



I know that many of the international conferences and research journals use English. I have met many international researchers at these conferences and have learned a lot about their work because they could speak English effectively. As the new English instructor, I want to help the students here at Showa University also become productive and contributing members of the international community in their field of research. I think there are common characteristics of being a good communicator about one's research that I can teach. I hope that I can help Showa become even better in the future.

受賞

広報委員長 井上 富雄

・安原 理佳(口腔病理学 助教):9月21-22日に開催されました「第52回歯科基礎医学会」におきまして「歯科基礎医学会賞」を受賞されました。

・吉村 健太郎(口腔生化学 研究員):9月21-22日に開催されまし



た「第52回歯科基礎医学会」におきまして「優秀ホスター賞」を受賞されました。

・山口 徹太郎(歯科矯正学 講師):9月27-29日に開催されました「第69回日本矯正歯科学会大会」におきまして「優秀発表賞」を受賞されました。

・小野 美樹(歯科矯正学 大学院3年):9月27-29日に開催されました「第69回日本矯正歯科学会大会」におきまして「優秀発表賞」を受賞されました。

EACMFS (European Association for Cranion-Maxillo-Facial Surgery)に参加しました

顎口腔疾患制御外科学教室 新谷 悟

去る9月14-17日にベルギーのブルージュで開催された欧州頭蓋顎顔面外科学会に参加してきました。こ



この学会は隔年で行われ、頭蓋顎顔面外科の最新の潮流と今後の展望についての情報が集まる世界最大の学会です。顎顔面外科の中でも再建外科や顎変形症とくに仮骨延長法などの骨外科に関しては、米国よりも欧州の外科がリードしており、その背景には、これに関する手術機器やデバイスの著しい進歩があります。内視鏡手術やナビゲーション手術についても、これらの機器の進歩が手術に直結します。今回の学会でも、低侵襲治療のための超音波骨切削機器、唾液腺手術のための内視鏡のデバイス、新しい概念の導入による骨接合法の進歩など、眼を見張る報告が相次ぎました。これらの機器について、ほんの一部のみが欧州に数年遅れて日本に紹介される場合もあります。しかし、それも薬事承認は取れないなど日本でこのような新しい機器を用いた新しい手術の導入に大きな壁があることを感じずにはいられない面もありました。しかし、その考え方や術式の中には応用可能のものもあり、今後、目指していくべき低侵襲手術に生かしていきたいと思えます。

診療統計(平成22年9月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,981	707.5	704.3	726.4
入院患者	416	13.9	16.4	14.8

編集後記

口腔生理学教室 中山 希世美

季節の変わり目で、体調管理の難しい今日この頃です。皆様、どうぞご自愛下さいませ。末筆になります。が、今月もお忙しい中、原稿を執筆くださいました諸先生方に厚くお礼申し上げます。